

考古かながわ 第19号

2000年8月31日

振り回されるな！ 測定値と真の年代

村澤正弘

昨年、「縄文の起源が4,500年も古くなった」という新聞記事が巷をにぎわせた。「青森県の大平山元I遺跡で発見された土器片の年代が16,500年と出た」という記事。今まで最古級の土器が約12,000年だったから、単純に考えればそのとおり。ですが、実は炭素14年代測定値を暦年代(実年代)に補正して提示することができるようになった。というのが正しい解釈なのです。

私たちが見聞きしていた何年前という数字は、炭素14年代測定値の数字で、そのまま暦年代として考えていました。ところが実際は、確実な暦年代がわかる遺物と合いません。そこで樹木年輪やサンゴ年輪による暦年代と炭素14測定値との比較が行われ、数年前に炭素14年代の暦年代較正曲線が出来上がったのです。

このグラフを使って補正換算をすれば、今まで12,000年前と言っていた物は約14,000年前という数字に置き換わります。話題の大平山元I遺跡の土器片の炭素14年代測定値は12,680~13,780年前

という数値、それに補正を加えた暦年代が14,920~16,520というわけです。

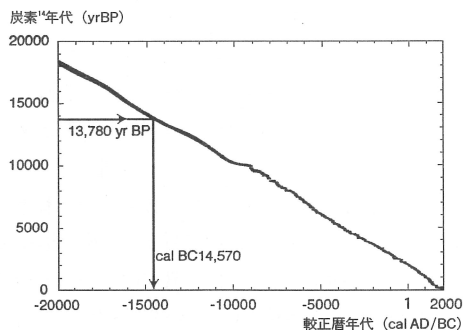
県内大和市の^{かみの}上野遺跡から測定値12,100~13,900年前の土器片が出ています。当然、最古の土器と騒がれてきました。上野遺跡の年代は熱ルミネッセンスという方法で測定している数字なので大平山元Iと単純に比較できませんが、大平山元Iも上野も時間的差はないということです。熱ルミ測定値は炭素14測定値より若干若くするという報告もあります。

さて皆さんにとって重要な問題は、少なくともここ1年以前に出た書籍や博物館で表示されている旧石器・縄文時代の暦年代については、現在では通用しないと考えなければなりません。

でもご安心ください。下に「炭素14年代暦年代較正曲線」のグラフを載せました。これを持っていれば換算できます。見方は、例えば炭素14測定値が13,780年であれば(縦軸)、暦年代は紀元前14,570年(今から16,570年前)となります(横軸)。

これらの一連のいきさつ等は、有斐閣の『はじめて出会う日本考古学』の北川浩之さんの文章やインターネット上の文章がわかりやすく容易に書かれています。参考にしてください。

「C-14年代観の修正」(<http://wwwamy.hi-ho.ne.jp/mizuy/how/absolute.htm>)、「年代をはかる」(<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/museum/ouroboros/01-02/nendai.html>)、「放射性炭素年代測定の原理と暦年代への換算」(<http://www.edu.gunma-u.ac.jp/~hayakawa/seminar/carbon.html>)、「考古学及び地質学と年代測定」(<http://www2.biglobe.ne.jp/~yaguti/mai/mai10.html>)



1999『大平山元I遺跡の考古学調査』より

総会報告

神奈川県考古学会の平成12年度総会が、平成12年6月3日(土)午後1時から「かながわ県民センター」で開催されました。

寺田会長のあいさつの後、会長が議長に選出され、議事に入りました。議長の司会で進行し、村田幹事から(1)平成11年度事業報告が、織笠幹事から(2)平成11年度収支決算報告(会計監査報告は金子監事)がありました。続いて、村田幹事から(3)平成12年度事業計画案が、織笠幹事から(4)平成12年度収支予算案がそれぞれ提出されました。

以上、4つの案件については、全て承認され総会を閉会しました。議事の要旨は次のとおりです。

また、総会終了後、「神奈川最新考古事情かながわ考古トピックス 2000」を開催しました。

議事1 平成11年度事業報告

1. 平成11年度総会の開催

日時 平成11年6月12日(土)13時～

場所 かながわ県民センター

内容 ・平成10年度事業報告ならびに会計報告

・役員改選

・平成11年度事業計画ならびに会計予算案

・'98 かながわ考古トピックス

参加者 約80人

2. 役員会の開催

- ・第1回 平成11年5月17日(月)
かながわ県民センター
- ・第2回 平成11年6月5日(土)
県立埋蔵文化財センター
- ・第3回 平成11年7月26日(月)
かながわ県民センター
- ・第4回 平成11年9月7日(火)
伊勢原市民文化会館
- ・第5回 平成11年11月15日(月)
かながわ県民センター
- ・第6回 平成12年1月19日(水)
かながわ県民センター
- ・第7回 平成12年3月15日(水)
県立歴史博物館
- ・総務委員会 平成12年2月29日(火)

かながわ県民センター

3. 第23回遺跡調査・研究発表会の開催

日時 平成11年9月12日(日)9時40分

場所 伊勢原市民文化会館

共催 伊勢原市教育委員会

後援 神奈川県教育委員会

内容 前年度調査された旧石器時代から近世までの遺跡のなかから、主要な10遺跡についてスライドを交えての発表が行われた。また紙上発表も2遺跡併せて行った。

発表要旨 A4版64頁 500部

特別講演 「伊勢原の古墳」

東海大学文学部教授 関根孝夫氏

参加者 約500人

4. 研究誌『考古論叢 神奈河』第8・9集の刊行準備

体裁 第8集『日野一郎先生追悼記念号』

第9集『岡本勇先生追悼記念号』

発行 平成12年9月予定

5. 連絡誌『考古かながわ』の刊行

発行 17号 平成11年9月30日

B5版 8頁 600部

18号 平成12年3月31日

B5版 8頁 500部

内容 総会、遺跡調査・研究発表会、考古学講座、遺跡見学会等の会の活動概要

6. 考古学講座

日時 平成12年3月5日(日)9時30分～

場所 かながわ県民センター

テーマ 「かながわの古代寺院」

後援 神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会

内容 主旨説明 岡本孝之

川崎市影向寺址 河合英夫

横須賀市宗元寺跡 竹沢嘉範

小田原市千代寺院跡 滝澤亮・小池聡

茅ヶ崎市下寺尾寺院跡 岡本孝之

相模国分寺・国分尼寺跡 須田誠

民間における仏教の受容 大坪宣雄

特別講演 相模の古代寺院と瓦 河野一也

発表要旨 A4版 146頁 700部

参加者 約260名
 考古学講座成果集の刊行
 古墳討論会成果集『神奈川の古墳その出現
 と展開』平成12年3月5日刊行
 A4版 20頁 450部

7. 遺跡見学会

第1回見学会

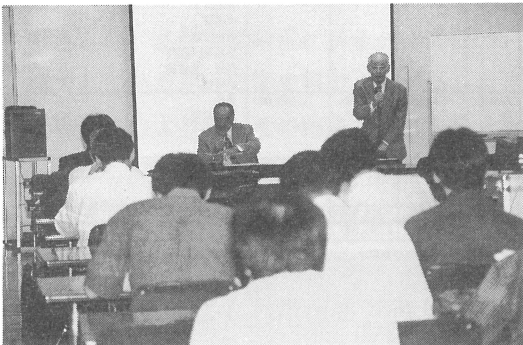
日時 平成11年11月6日(日)10時～
 場所 長柄・桜山第1・2号墳(逗子市・
 葉山町)
 内容 新たに発見された80m級前方後円
 墳2基を会員の東家洋之助氏・田
 村良照氏の案内で歩く。

参加者 87名

第2回見学会

期日 平成12年2月26日(土)～28日(月)
 場所 台湾
 内容 故宮博物院など台湾の文化財を視
 察。
 2回目の海外視察。

参加者 29名



議事2 平成11年度収支決算報告

(収入) (単位 円)

節	予算額	決算額	比較増減	説明
会費	1,341,000	1,716,000	△ 375,000	11年度会費 3,000×313= 939,000 12年度会費 3,000×57= 171,000 旧年度会費未納分 3,000×202= 606,000
機関誌 等売上	1,140,000	1,002,900	137,100	発表要旨 242,000 内訳 会員 500×145= 72,500 700×8= 5,600 1,000×1= 1,000 1,200×1= 1,200 会員外 700×216= 151,200 1,000×9= 9,000 1,500×1= 1,500 考古論叢 228,600 内訳 会員 1,500×10= 15,000 1,800×9= 16,200 会員外 2,300×3= 6,900 委託販売 2,500×41= 102,500 考古学講座要旨 0.8×2,500×44= 88,000 532,300 内訳 会員 100×78= 7,800 500×138= 69,000 700×23= 16,100 800×59= 47,200 会員外 400×75= 30,000 1,000×105= 105,000 1,500×140= 210,000 委託販売 0.8×1,000×59= 47,200
繰越金	1,582,592	1,582,592	0	
雑収入	1,408	40,662	△ 39,254	預金利子 994 寄付金 39,188 送料収入(切手) 490
合計	4,065,000	4,342,154	△ 277,154	

(支出) (単位 円)

節	予算額	決算額	比較増減	説明
会議費	100,000	42,730	57,270	会議資料代 12,910 会議費 3,780 会場借上 26,040 講師謝礼 0
会誌発行	300,000	252,500	47,500	考古かながわ17・18印刷代 164,000 原稿謝礼 0 発送・連絡費 88,500
普及啓 発	180,000	47,727	132,273	講師謝礼 0 会場借上 0 会議費 0 資料印刷代 7,006 発送・連絡費 40,721 保険料 0
発表会	850,000	465,967	384,033	発表要旨印刷代 299,250 会場借上 0 講師謝礼 40,000 設営代 126,717
考古学 講座	500,000	600,770	△ 107,770	講師謝礼 30,000 会場借上 25,320 会議費 3,003 要旨印刷代 360,150 記録集印刷代 80,325 発送・連絡費 79,520 設営代 22,452
事務局 費	790,000	513,820	276,180	賃金 292,000 消耗品代 32,550 通信費 106,550 会員名簿印刷 73,500 雑費 9,220
追悼集 刊行準 備金	1,000,000	1,000,000	0	考古論叢神奈河8・9刊行費として 1,000,000
予備費	315,000	0	315,000	
合計	4,065,000	2,923,514	1,141,486	

歳入・歳出合計
 平成11年度収入 4,342,154
 平成11年度支出 2,923,514
 執行残 1,418,640 (次年度へ繰越)

会計監査報告

平成11年度の収支決算について、金銭出納簿、
 証拠書類を精査し、預金残金と照合した結果、誤
 りなく適正に処理されていることを確認しました。

平成12年5月11日

監事 市川規平 ㊟

監事 金子皓彦 ㊟

議事3 平成12年度事業計画案

1. 総会の開催

場所 かながわ県民センター

日時 平成12年6月3日(土)13時～

- 内容 ・平成11年度事業報告ならびに会計報告
 ・平成12年度事業計画ならびに予算案
 ・かながわ考古トピックス2000

2. 役員会の開催

原則として年6回開催する予定(奇数月の第三水曜日)

第1回 平成12年5月17日(水)

県立歴史博物館

第2回 平成12年5月27日(土)

県立埋蔵文化財センター

3. 第24回神奈川県遺跡調査・研究発表会

日時 平成12年10月1日(日)9時～

場所 鶴見大学会館(横浜市鶴見区鶴見2-1-3)

内容 平成11年度に調査された遺跡の中から主要な10遺跡と研究発表2件および誌上发表2件を予定

特別講演 江坂輝弥(慶應大学名誉教授)氏を予定

共催 鶴見大学

4. 研究誌『考古論叢 神奈河』第8・9集の刊行

・第8集『日野一郎先生追悼記念号』

・第9集『岡本 勇先生追悼記念号』

各100頁程度 各700部

平成12年9月同時刊行

5. 連絡誌『考古かながわ』の刊行

体裁 B5版 8頁を予定

部数 500部

発行 年2回 19号を8月下旬、20号を平成13年3月下旬

内容 総会、遺跡調査・研究発表会、見学会、講座等の開催、事務連絡など会の活動計画及び報告

6. 考古学講座開催

テーマ 未定

場所 横浜市内

日時 平成13年2～3月の予定

7. 見学会の開催

調査中の主要な遺跡、博物館・資料館・史跡等の見学。年数回

第1回見学会

場所 建長寺(鎌倉市)

日時 平成12年5月13日(土)10時～

参加者 45名

第2回見学会

場所 未定

日時 平成12年9月頃を予定

第3回見学会

場所 未定

日時 平成13年3月頃を予定

議事4 平成12年度予算案

(収入)

(単位 円)

節	予算額	前年度予算額	比較増減	説明
会費	1,545,000	1,341,000	204,000	12年度会費 3,000×415=1,245,000 旧年度会費未納分 3,000×100= 300,000
機関誌等売上	1,490,000	1,140,000	350,000	発表要旨 240,000 考古論叢 850,000 考古学講座要旨 400,000
繰越金	1,418,640	1,582,592	△ 163,952	
雑収入	9,360	1,408	7,952	
合計	4,463,000	4,065,000	398,000	

(支出)

(単位 円)

節	予算額	前年度予算額	比較増減	説明
会議費	125,000	100,000	25,000	会議資料代 90,000 会議費 5,000 会場借上 30,000
会誌発行	2,290,000	300,000	1,990,000	考古かながわ19・20印刷代 180,000 考古論叢神奈河8・9印刷代 2,000,000 原稿謝礼 10,000 発送・連絡費 100,000
普及啓発	112,000	180,000	△ 68,000	講師謝礼 10,000 会場借上 5,000 会議費 5,000 資料印刷代 10,000 発送・連絡費 72,000 保険料 10,000
発表会	500,000	850,000	△ 350,000	発表要旨印刷代 300,000 会場借上 30,000 講師謝礼 40,000 股息代 130,000
考古学講座	480,000	530,000	△ 50,000	講師謝礼 30,000 会場借上 30,000 会議費 10,000 要旨印刷代 200,000 記録集印刷代 100,000 発送・連絡費 70,000 股息代 40,000
事務局費	450,000	790,000	△ 340,000	賃金 280,000 消耗品代 50,000 通信費 100,000 雑費 20,000
追悼集刊行準備金	0	1,000,000	△ 1,000,000	
予備費	506,000	315,000	191,000	
合計	4,463,000	4,065,000	398,000	

備考 追悼集刊行準備金積立 2,000,000円。(平成11年・12年度)
 会員数 472名(平成12年3月31日現在)

神奈川最新考古事情「かながわ考古トピックス 2000」

「旧石器・縄文時代 川尻遺跡を中心として」

村田 文夫

「弥生・古墳時代 真田・北金目遺跡群と長柄・桜山古墳を中心として」

伊丹 徹

「古代 神奈川県の古代地方官衙の状況足下郡衙・高座郡衙・橘樹郡衙を中心として」

明石 新

「中・近世 焼継された陶磁器と幕末の小田原宿」

諏訪 順

最近話題の遺跡

おがさか 埼玉県小鹿坂遺跡

諏訪 順

宮城県を中心とした日本列島最古の石器文化の追求の波も、埼玉県秩父市長尾根遺跡、小鹿坂遺跡が相次いで発見され、関東地方にまで及ぶようになりました。

関東地方において、後期旧石器時代を遡る石器群はこれまで少なく、東京都多摩ニュータウン No.471B遺跡など5万年前の中期旧石器段階の石器群が数カ所知られる程度であり、これを遡る前期旧石器の発見が最大の課題とされていました。

小鹿坂遺跡は、秩父市郊外の尾田蒔丘陵上に位置する遺跡で、長尾根遺跡などとともに前期旧石器時代の遺跡群を形成しているようです。出土層位が多摩ロームの基盤礫層の上30cm、下位の軽石層直下から出土していることから、関東地方では最古となる約50万年前の石器群と推定されています。

この遺跡では石器だけでなく、高さ5～20cm程の盛土の上に5つの柱穴が円形に並ぶ「生活遺構」が2基と石器を土坑に埋めたと考えられる「埋納遺構」3基などが検出されています。出土した石器は、小型両面加工石器とスクレイパー、楔形石器、篋状石器など東北地方の前期旧石器と共通する内容を持っています。また、使われた石材は、頁岩や鉄石英などの関東地方にはほとんど認められない石材が使用されていることから、原人達が極めて広範囲な空間を行動領域としていたことが理解できます。

小鹿坂遺跡など一連の遺跡の発見は、栗島義明さんと藤村新一さんによって発見されたものですが、栗島さんが中心となって約10年もの長期間にわたる分布調査の成果であり、この努力は称賛に値します。また、藤村さんは宮城県上高森遺跡をはじめとする多くの前期旧石器時代遺跡を発見者として良く知られています。

この遺跡の意義は今後様々な形で検証されていくものと考えられますが、栗島さんが言われているように「関東ローム層の中で最古段階とされる多摩ローム層の標識露頭の一つである秩父・尾田蒔丘陵から発見された意義は大きい。」ものといえましょう。

小鹿坂遺跡は、一般公開された2月27日の見学者は実に7,000人を越えたと報道されました。会員の中にも見学された方もいらっしゃると思いますが、「最古の日本人」、「日本人のルーツ」に対する興味は無条件に多くの人々の関心を引きつける魅力を持っています。

現在も調査が継続され、新たな発見が続いており、地元では逐一最新情報が発信されているようです。また、秩父市によって11月頃に国際シンポジウムの開催と見学会も企画されていると聞いています。

本誌がお手元に届く頃には正確な情報が明らかになっていることと思います。是非チェックしておいてください。

現場は秩父市郊外の公園施設「秩父ミュージアムパーク」内であり、眼下に秩父盆地を見下ろす風光明媚な場所です。是非皆さんも現地立ち、原人達に思いを馳せてみたいかがでしょうか。

インターネットで情報を得たい方は「<http://www.amy-hi-ho.ne.jp/mizuy/arc/ogsk/>」へアクセスしてみてください。2月に行われた現地説明会資料も入手することができます。



水山昭宏さん提供

かながわの史跡めぐり

かわさき編 Part2

～子母口貝塚・影向寺遺跡・市民ミュージアム～

村田 文夫

都市化がすすんだ川崎で、縄文貝塚というと意外と思われるでしょうが、しかし子母口貝塚①の発掘史を繙くと、昭和初期の地域考古学史を知る思いがします。

子母口貝塚の謎に挑戦したのは、明治36年に高津区久本の医者の子男に生まれた岡栄一さんで、昭和39年に61歳の生涯を閉じるまで地域医療に尽くされました。その彼が昭和初期に橋樹考古学会という研究会を主宰し、子母口貝塚や久本貝塚・新作貝塚などの発掘記録を当時の学界誌に報告しています。

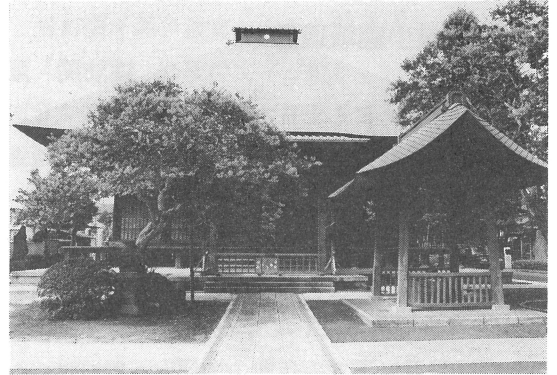
むろん彼の主たる関心は、発掘される考古遺物にあったと思われますが、半面、当時の学界はいわゆる人種論隆盛期でもあったので、あるいは貝塚から発掘される人骨の分析に期待があったのかも知れません。

子母口貝塚は、昭和32年に県史跡に指定され、現在は史跡公園として整備されています。

所在地：川崎市高津区子母口54-148

交通案内：JR「武蔵溝口駅」から市営・東急バスで「子母口」下車。徒歩4分。

子母口貝塚から影向寺②には徒歩で15分前後でいけます。影向寺は、天平の礎をのせる寺院とし



影向寺薬師堂。この下に古代の建物跡が眠る。

て周知されてきましたが、ここ20年間における幾度かの発掘調査によって寺伝の縁起を半世紀も遡ることが判明しています。

現在、県指定重要文化財に指定されている薬師堂の位置に金堂(または講堂)が建てられ、影向石のある位置に塔(三重層)が建てられていたことが確かめられています。

寺の性格については、「都」とヘラ書きされた文字瓦が境内から採集されていますので、橋樹郡の鎮護平安を願った郡寺であろうと考えられます。

最近、影向寺に隣接する高津区千年伊勢山台北遺跡③から橋樹郡の郡衙と思われる遺構(正倉跡)が発掘されていますので、この地域の古代史に多くの研究者の眼が注がれています。

所在地：川崎市宮前区野川419

交通案内：JR「武蔵小杉駅」から市営・東急バスで「影向寺」下車。徒歩8分。

影向寺から武蔵小杉駅へバスで出て、さらに等々力緑地内の市民ミュージアム④に脚を向けていただくと、今紹介してきた子母口貝塚や影向寺から発掘された資料をみることができます。棒状や紐状の用具で装飾した子母口式土器の実物や影向寺から採集された鏡瓦や文字瓦、あるいは古代の火葬骨蔵器などは、きっと皆さんの知的好奇心を満たしてくれることでしょう。

交通案内：JR「武蔵小杉駅」から市営・東急バスで「市民ミュージアム」下車。

見学会から

旅の思い出—何思う蒋介石像—

天 野 進(横浜市中区)

先月来、かねてから行ってみたいと思っていた台湾へ県考古学会一行に加わり二泊三日のツアーに参加した。

今回の台湾は台北市故宮博物院の世界的に貴重な青銅器、陶磁器、書籍、玉器などの美術品を見学することが目的。

博物院の展示物は中国四千年の歴史を物語り、その中から生み出されたものばかりで、各時代ごとの特徴や清の乾隆帝を頂点として盛えた文化の薫りに魅了された。

殷の貝貨(ばいか)、周代の青銅器「毛公鼎」、ラクダの「唐三彩」、王羲之の「神書」、カマキリがとまっている白菜のヒスイ「翠玉白菜」などガイドさんの懇切丁寧な説明にうなずきながら鑑賞した。

ところで写真は故宮博物院前に建てられている蒋介石像。戦乱のさなか、中国・紫禁城から膨大な美術品を運び出し、上海から三隻の船に乗せ台湾の地に運んだという。

軍人として政治家として、そして美術愛好家として台湾の人々から敬愛されている蒋介石。像は笑みを浮かべた温和な表情で、そのまなざしの先にははるかな大陸を見つめているが、総統選挙後、揺れる台湾をどう思っているのだろうか。

*本文は神奈川新聞(2000.3.23)に掲載されたものを再録しました。

∞ ∞

故宮博物院を見学して

信 原 亜 弥(横浜市磯子区)

台北の故宮博物院は、ルーブル、メトロポリタン、エルミタージュとならぶ、世界四大博物館のうちの一つに数えられ、その収蔵品は歴史的、美術的価値の高いものであり、館内は部屋ごとにテー

マを分けて展示されており、見やすいレイアウトになっておりました。約70万点ある所蔵品のうち常時展示されるのは1万2000~3000点だそうです。

大学で中国史を学び、中国古代史に興味がある私の一番の目的は、中国の河南省安陽県小屯で発見された殷墟大墓関連の展示物を見ることでした。この地一帯では王墓とされる11の大墓が発見されており、中でも最も有名なのは、1001号大墓と呼ばれるものであります。

この模型や写真、精巧で素晴らしい殷代青銅美術の精華とされる優秀な作品、大理石の副葬品等は発掘当時を偲ばせるものであります。

第二の目的は甲骨文字で、これを目当てにされていた方も何名かいらっしゃった様ですが、残念ながら今回の展示には出しておらず見ることが出来ませんでした。故宮では一部の展示品を除き、3~6ヶ月おきに展示品替えが行なわれているとのことで、次回もし訪れることがあれば是非、拝見したいと思っております。

今回、土日に訪れたからか、故宮博物院では、家族連れ、特に子供の姿が多く見かけられました。日本だと、社会見学や修学旅行とかでないかと、あまり博物館を訪れない様に思います。日本の子供達にも、もっと自分の国の文化、芸術に触れて欲しいと思いました。

次に台湾を訪れた時は、他の見どころに行き、台湾文化をもっと知りたいです。

∞

河 崎 久美子(横須賀市)

「たっぷり故宮博物院」のパンフレットが届いた時、かねてより行ってみたいと思っておりましたので、すぐ母と娘と3人で参加することにしました。娘は荷物持ちとして3人分を1つのトランクで運ぶことになりました。母は3年前に作りかえたパスポートを使うチャンスが出来たと喜んでいました。私は3人で行ける幸せを感じ、旅支度をしました。

当日2月26日4時に起床し、空港へ。同行の会員の方々と共に台北へ。現地は思っていたより寒く、2日間小雨でした。

故宮博物院では現地のガイドの上手な日本語に感心しながら宝物を見て回りました。宝物の中で一番心に残っているのは、「翠玉白菜」の玉彫でした。身近かにある白菜が本物そっくりに彫られて緑と白の接する部分の変化が自然で、その上葉の上には2匹のキリギリスが止まっている様子がとても可愛らしく、思わず見とれました。ここまで足を運んだかいがありました。

市内では折しも総統選挙中で、新大統領に選ばれた陳水扁氏の大きな看板が印象に残りました。

帰宅し、母より「いい旅だったわね」とはずんだ電話の声。よい思い出が又一つ加わりました。皆様お世話になりました。又の出会いを楽しみにしております。

∞

山本 サチ子(横須賀市)

「おばあちゃん、台湾の故宮三日間の旅へ行きたい？」との孫娘の誘いに飛びついた。

けれど、気楽な老人会の旅とは違って皆さんに付いて歩けるかと急に心配になり出したが、娘と孫と一緒にいう機会はもう無いかもしれないし、故宮はどうしても見たいし、で保険をかけて準備をした。

私は台湾には特別な思いがある。戦前、父(明治23年生)の数少ない海外出張の中で、台湾の日月潭を背景に高砂族と写した写真があって水牛の角のお土産と共に強烈な印象が残っている。

私が学校で習ったのは日本領としての台湾であったから、今はどんなになって

いるか興味がとてもあった。

飛行機を降り故宮へ向かうバスの車中で先ず目に入ったのは看板の文字が懐かしい旧漢字ばかりでアルファベット文字が殆ど見当たらなかったこと。町の中の建物は日本の戦後の復興期の頃のもので、ある懐かしさを感じた。そんな思いで着いた故宮博物館の立派なこと、広い敷地にびっくりした。新しすぎて風格に乏しかったが、これは致し方ないことと思直した。

年配のガイドの熱心な説明に耳をかたむけながら蒋介石総統のご苦勞を偲んだ。ガイドの方はとても知識が豊富で宝物の曰くがよく分かるような説明で、時間があってもっと伺いたかった。

三日目の午後の市中見学では、旧日本の建物の総督府、大学などを破壊しないでそのまま使用している台湾の気持ちを嬉しく思った。

終わりに食事のことですが、決められた場所だけの経験で、露店のものは食べなかったので(本当は食べたかった)、語る資格はないけれど、塩分がうすく甘みが強かったように感じた。戦前に台湾製糖という大きな会社があったことを思い出し、成程と納得した。

この旅をお世話して下さった方々に厚く感謝申し上げます。

*山本サチ子さん、河崎久美子さん、信原亜弥さん、親子3代揃って見学会に参加していただきました。



建長寺境内調査現場見学会に参加して

川真田 桂 子(厚木市)

5月13日は朝から曇り空だった。発掘調査の現場見学会に参加するのはこれが初めてだったので、雨が降らないことを祈りつつ、建長寺へ向かった。午前10時、集合場所の総門前には大勢の人が集まっていた。見学会役員の方から、見学会資料の配布と軽い説明があった後、いよいよ建長寺境内へと入ることになった。

最初に発掘現場をみせていただいた。建長寺境内は、昭和61年にも現在の庫裏を建築するために発掘調査をしており、今回はさらに奥にはいった部分を発掘しているということだった。発掘の現場を実際にみるのは初めてで、本当に穴があいているのだな等と妙なことに感動しながら、遺構についての説明を受けた。現在残っている中世や近世の建造物を見るのとは、また違った趣があった。遺構の中に入り、応永年間の大火災の時の跡なども見ることができた。なぜ火災があった時のものだとわかるのか不思議に思っていたら、土は焼けると赤くなるからわかるのだということを見せてくださった。私は大学時代に日本の中世について勉強をしていたが、文字史料で火災があったという記載を読むよりも、その出来事をとても身近に感じることができた。元弘元年(1331)に作られたという元弘指図と一致する池跡などの遺構が検出

されているということで、用意していただいた資料と照らし合わせて見て見事に合致していることに感動。という具合に色々ところで感動しながら遺構の全体を見終わったところで、ぱらついていた雨が本降りになった。幸いにも、遺構の全体を一通り見ることができた私たちは、その後しばしお堂の軒下で本尊を眺めながら雨宿りをし、雨があがるのを待つことになった。

雨が小ぶりになったので、次は別の場所で整理している出土品を見せていただくことになった。出土品は池跡の内から出土したもので、応永の火災の時に投げ入れられたものということだった。中には色々貴重なものがあったが、中でも日本で2点目の出土となる、非常に貴重な釣窰の鉢を見ることができた。出土したものはほんの一部だが、それから口径を推測するとかなり大きなものになるというお話だった。同じく出土した方丈の漆器には「福山 方丈 百具内」という文字が入っていた。これは百具、二百具そろいの天目茶碗だそうで、14世紀までさかのぼるものだという。お膳と器がそろって見つかるというのはなかなか、その中でもかなり古いもので、確実にセット関係にあるものはほとんど見つかっていないと言うほど貴重なものだそうだ。また、中国の龍泉からの輸入品になる青磁もでていた。青磁を見分けるには本物に触れるしかないという教えのもと、

幾度も手に取り眺めてみた。が、私に青磁の良し悪しがわかるようになるのはまだまだ先のようなのである。他にもたくさんの出土品があったが、これから更に池を掘るともっと多くのものが出てくるはずだというから、今後の調査の成果が楽しみである。

とにかく、何もかもが初めての経験で、中世の遺構をみることでできた幸運に感謝しつつ、新たに勉学に励まねばならないという気持ちを新たにしたいと思う。



展示会・講演会等情報

(注：展示期間中の休館日等は個々にお尋ねください)

●平成12年小田原市遺跡調査発表会

平成11年度に小田原市内で発掘調査を実施した主要9遺跡についてスライド発表します。

11月12日(日)10:00~16:00、小田原市立かもめ図書館視聴覚ホール(TEL 0465-49-7800)、当日先着順180名、有料、問合せ：小田原市教委文化財保護課(TEL 0465-33-1717)、

●中里遺跡講演会「東日本弥生時代の幕明けを解明する」

関東地方の弥生時代幕明けを示す遺跡として全国的に注目された中里遺跡についてその意義などを第一線の研究者が講演し、議論を加えます。

11月5日(日)13:00~16:45、小田原市立かもめ図書館視聴覚ホール(TEL 0465-49-7800)、当日先着順180名、有料、講演者：石川日出志(明治大学)・戸田哲也(玉川文化財研究所)・大島慎一(小田原市教育委員会)、問合せ：小田原市教委文化財保護課(TEL 0465-33-1717)。

●小田原市最新出土品展2000「弥生時代の小田原」

近年発掘調査された遺跡について出土遺物を展示しパネル等でわかりやすく解説します。

11月1日(水)~12日(日)9:00~16:30、小田原市立かもめ図書館集会室(TEL 0465-49-7800)、無料、問合せ：小田原市教委文化財保護課(TEL 0465-33-1717)。

●かながわの遺跡展「古墳登場」

県内における古墳の出現をメインテーマとし、その発生過程である弥生中期後半~後期の方形周溝墓をはじめとする墓の系譜を明らかにします。

10月2日(月)~31日(火)9:00~16:30、県立埋蔵文化財センター(TEL 045-252-8661)、無料。

11月10日(金)~12月10日(日)9:00~17:00(入館は16:30まで)、大和市つる舞の里歴史資料館(TEL 046-278-3633)、無料。

講演会 10月22日(日)14:00~16:00「弥生から古墳へ」 禰宜田佳男(文化庁)、10月29日(日)14:00~16:00「南関東における埴輪の世紀」 稲村繁(横須賀市自然・人文博物館)、11月19日(日)14:00~16:00「神奈川県内の出現期古墳(仮題)」 立花実(伊勢原市教育委員会)、前2は県立埋蔵文化財センター・後は大和市つきみ野学習センター

(TEL 046-275-0088)、無料、問合せ：(財)かながわ考古学財団(TEL 045-252-8661)。

●平成11年度発掘調査成果発表会・公開セミナー「かながわの出現期古墳を探る」

第I部：平成11年度発掘調査成果発表会

第II部：公開セミナー特別講演「東日本の中の神奈川県内の出現期古墳」 白石太一郎(国立歴史民俗博物館)、事例報告。

10月15日(日)10:00~16:25、県立地球市民かながわプラザホール(TEL 045-896-2121)、無料、問合せ：(財)かながわ考古学財団(TEL 045-252-8661)。

●考古学ゼミナール「祈り-祭祀にみる人々の心-」

「祈り-祭祀にみる人々の心」と題して旧石器より古代まで、各時代ごとに講演を実施します。

12月6日(水)・12日(火)・20日(水)・1月11日(木)・24日(水)14:00~16:00(12月6日と1月24日は16:30まで)、県生涯学習情報センター研修室(TEL 045-312-1121)、無料、申込み90名、問合せ：(財)かながわ考古学財団(TEL 045-252-8661)。

●調布の遺跡展「調布の古墳-出土品が語る生と死-」

調布市を中心とした多摩川中流域の古墳や集落遺跡を紹介します。

10月28日(土)~12月17日(日)10:00~18:00、調布市文化会館たづくり1階展示室(TEL 0424-41-6171)、無料。

講演会 11月3日(金)「鉄と武器にみる古墳時代」古谷毅(東京国立博物館)、11月11日(土)「解き明かされる多摩川流域の古墳時代①」対比地秀行(狛江市教育委員会)・十時俊作(調布市教育委員会)、11月18日(土)「解き明かされる多摩川流域の古墳時代②」沼上省一(三鷹市遺跡調査会・塚原二郎(府中市教育委員会)、無料、電話先着各80名、問合せ：調布市郷土博物館(TEL 0424-81-7651)。

●石器が語る歴史

秦野市出土の先石器時代~近世までの石器・石製品を展示し、人と石のつながりを考えます。

10月17日(火)~11月5日(日)9:00~17:00(入館は16:30まで)、秦野市立桜土手古墳展示館(TEL 0463-87-5542)、無料、問合せ：秦野市立桜土手古墳展示館。

●文化財講演会「むかし人の風景」

9月13日(水)13:30~16:00「土偶からみた縄文集団」安孫子昭二(都文化課)、10月7日(土)13:30~16:00「おしゃれな縄文人」降旗千賀子(目黒区美術館)、11月11日(土)13:30~16:00「古代朱の風景」市毛勲(早稲田実業高校)、1月17日(水)13:30~16:00「古代のニュータウン開発」栗城譲一(都埋文センター)、2月7日(水)13:30~16:00「江戸・東京・人」齊藤進(都埋文センター)、無料、当日先着順120名、問合せ:東京都埋蔵文化財センター(TEL 042-374-8044)。

●企画展「甦った遺宝ー修復された指定文化財ー」

箱根町内に残る指定文化財及び文化財修復課程を実物・パネル・VTRで紹介します。

10月28日(土)~11月26日(日)9:00~16:30、箱根町立郷土資料館(TEL 0460-5-7111)、有料、問合せ:箱根町立郷土資料館。

●温故館特別展「縄文の美」

海老名市内の縄文時代の遺跡及び出土品紹介。

開催日程未定、9:00~17:00(入館は16:30まで)、海老名市温故館(TEL 046-233-4028)、無料、問合せ:海老名市教育委員会文化財担当(TEL 代046-231-2111)。

●六浦・金沢「海が育んだ歴史と文化」

「海」をキーワードとして、縄文時代から近代に至る六浦・金沢の歴史をたどります。

後期「変貌する海と人々の暮らし」8月24日(木)~10月15日(日)9:00~16:30(入館は16:00まで)、県立金沢文庫(TEL 045-701-9069)、有料、問合せ:県立金沢文庫。

●特別展「古代伊興遺跡の世界」

従来から祭祀遺跡として知られてきた伊興遺跡からは近年の調査により、騎馬像木簡など新しい発見が相次ぎました。今回の特別展ではそれらの資料を一同に公開します。

10月24日(火)~12月3日(日)9:00~17:00、足立区立郷土博物館(TEL 03-3620-9393)、有料。

講演会 10月29日(日)「伊興出土の韓式土器」酒井清治(駒沢大学)、11月9日(日)「古代足立郡の郷(里)と伊興遺跡」小川良祐(埼玉県教育委員会)、無料、申込必要、問合せ:足立区立郷土博物館。

●文化財保護法50年記念「縄文の華」

縄文時代後・晩期は縄文文化の爛熟期で、芸術的にも優れた出土品が多いことでも知られています。土偶・岩偶や彫刻を施された石剣・石棒、土版や仮面など、当時の精神世界を反映した遺物は、その代表的なものです。北海道・東北・北陸・関東・東海・関西地方の出土品を通して、多彩で華やかな後・晩期の縄文文化の世界を紹介します。

9月9日(土)~10月22日(日)9:30~17:00、川崎市市民ミュージアム(TEL 044-754-4500)、有料。

講演会 9月24日(日)14:00~15:30「縄文土器ー多彩な後・晩期土器の世界ー」小林達雄(國學院大学)、10月1日(日)「土偶一人がたに秘められた祈りー」原田昌幸(文化庁)、10月8日(日)「縄文人と生き物たちー出土動物骨からの視点ー」金子浩昌(早稲田大学)、有料各500円、申込先着270名、問合せ:川崎市市民ミュージアム。

●特別展「発見! 巨大集落ー大熊仲町遺跡と縄文中期の世界」

港北ニュータウン地域に所在する縄文時代中期の大規模な集落跡の姿を、東日本各地に所在する同時期の集落跡と対比し、縄文時代遺跡の姿を明らかにします。

10月7日(土)~11月26日(日)9:00~17:00(入館は16:30まで)、横浜市歴史博物館(TEL 045-912-7777)、有料。

講演会 11月5日(日)13:30~「縄文時代の集落と人々の暮らし」岡村道雄(文化庁)、11月19日(日)「大熊仲町遺跡を掘る」坂上克弘(横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター)、無料、申込、問合せ:横浜市歴史博物館。

●企画展「横浜の古墳」

1月27日(土)~3月11日(日)9:00~17:00(入館は16:30まで)、横浜市歴史博物館(TEL 045-912-7777)、有料。

新刊紹介

岡本 勇先生監修

『海老名市史 1 資料編 原始・古代』

A 5 判900ページ 頒価5,000円

(送料 1 冊520円)

問い合わせ 海老名市市史編さん室

TEL 046-231-2111(代)

神奈川県考古学会第2代会長故岡本勇先生が、編集委員長を務められた海老名市史の『資料編 原始・古代』が刊行されました。

海老名市域は県央地域、相模野台地の西縁に位置し、相模川に面した関東以西への出入口のひとつとして歴史的に重要な役割を果たした所です。先土器時代では瀬戸内海沿岸を分布の中心とする国府型ナイフ形石器の出土したことで知られる柏ヶ谷長ヲサ遺跡が有名です。縄文時代早期や晩期における静岡方面との関係、弥生時代から古墳時代にかけての伊勢湾岸域とのつながりが注目されています。さらに秋葉山古墳群を始めとする前期古墳の特徴的な存在、そして言うまでもなく相模国分寺址をめぐる問題というように、しばしば西方との関係の中で、この地域の特徴が議論されています。

岡本先生は、かの『横浜市史』を皮切りに、相模原、茅ヶ崎の県内各市史や県史編纂に尽力され、80年代からは大和、綾瀬、海老名各市史の編纂に力を注がれました。それは岡本先生の生涯のテーマであった地域研究の実践例でもありました。この度の『資料編』は先生が陣頭指揮をとられ監修された最後の市史となったものです。そして筆者もその一人として、現在『通史編』の準備をすすめているところです。少しでも岡本先生の御遺志を生かし、地域研究の実をあげたいと考えています。『資料編』はそのための土台作りとして関係者一同、努力してきましたが、これを一人でも多くの方に見ていただき、次の『通史編』のためにもご意見を賜りたいと思います。(織笠 昭)

会員動向

新入会員

秋山 正雄

粕谷 隆

榊原 智之

佐藤ちえみ

三淵美恵子

住所変更等

石元 道子

笠井 洋祐

信原(旧姓河崎)亜弥

榊 剛史

白石 浩之

原 廣志

長岡 史起→長岡 文紀

逝去された会員

木原 博義(1999年度) 相模原市

富澤 美晴(1999.10) 大和市

「考古かながわ」は会員のみなさんが自由に発言できる場です。みなさんの投稿をお待ちしています。事務局もしくはEメール(murasawa@par.allnet.ne.jp)まで。

考古かながわ 第19号

発行 神奈川県考古学会

発行日 2000年8月31日

編集者 近藤英夫・曾根博明・土井永好・
降矢順子・村澤正弘

事務局 東海大学文学部考古学研究室内
〒259-1207 平塚市北金目1117

郵便振替 00240-9-71208

印刷所 有限会社 湘南グッド